

企業短期経済観測調査（道北*地域分）
（調査対象企業：道北*46社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内

回答社数構成比 %ポイント

（ ）内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2012/3月	6月	9月	12月	2013/3月	2013/6月	2013/9月までの予測
業況判断 < 良い - 悪い >	▲29	▲8	▲9	▲11	▲9	(▲7) 5	0
うち製造業	▲20	▲20	▲30	▲20	0	(10) 10	10
非製造業	▲32	▲6	▲3	▲8	▲11	(▲11) 2	▲2
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	▲29	▲25	▲18	▲37	▲37	(▲28) ▲23	▲19
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	9	13	11	8	6	(-) 0	-
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	7	7	0	0	2	(▲2) 6	▲4
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	6	0	▲8	▲13	▲6	(▲17) ▲8	▲31
資金繰り < 楽である - 苦しい >	▲26	▲22	▲7	▲9	▲9	(-) ▲4	-
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	▲7	▲4	4	2	4	(-) 14	-
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	▲9	▲7	▲7	▲7	▲9	(2) ▲7	11
販売価格 < 上昇 - 下落 >	▲29	▲33	▲28	▲24	▲10	(▲4) ▲9	▲9
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	27	23	18	17	26	(41) 28	33

（注）「製商品在庫水準判断」および「資金繰り判断」、「金融機関の貸出態度判断」の「2013/9月までの予測」は調査対象外。

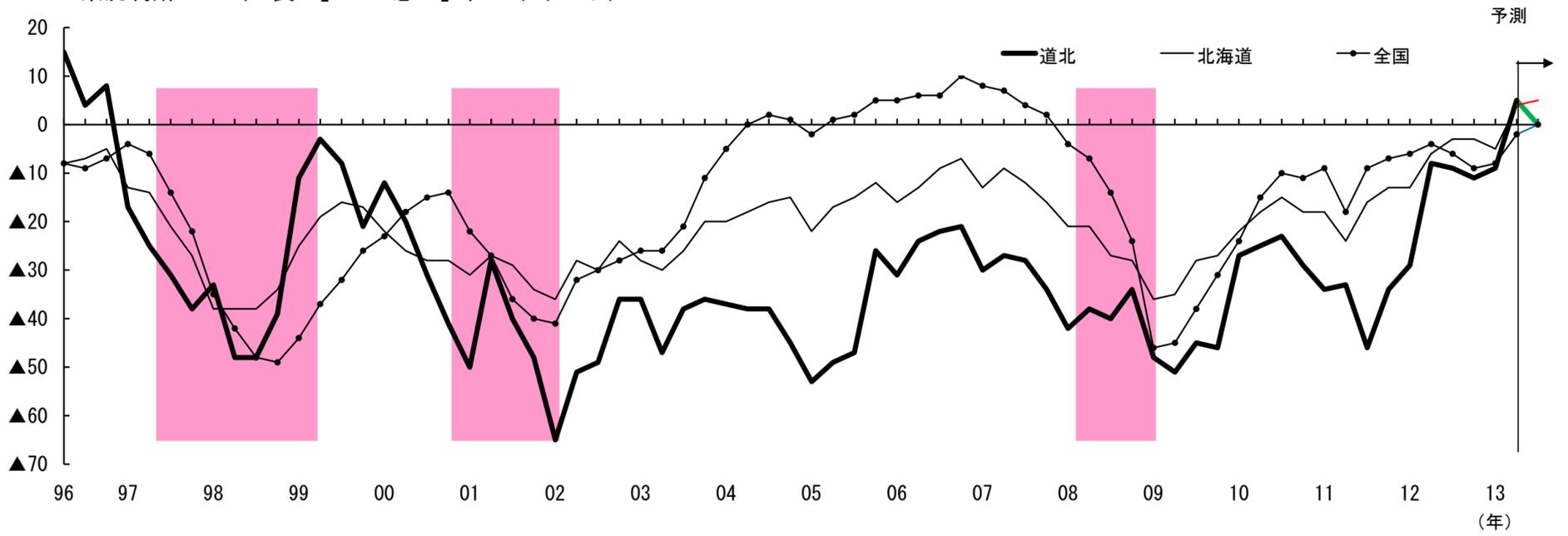
全産業、前年度比%、
< >内は前回調査比修正率%

（事業計画）

	2012年度実績	2013年度計画			
		上期		下期	
売上高	▲2.7 < +0.9 >	+4.7 < +2.0 >	+7.1 < +3.4 >	+2.6 < +0.7 >	
経常利益	▲21.1 < -6.5 >	+49.2 < +11.2 >	+32.8 < +3.3 >	+58.4 < +15.4 >	
当期純利益	黒字転化 < -64.9 >	5.0倍 < +15.1 >	2.3倍 < -0.1 >	9.2倍 < +22.6 >	
設備投資額	+28.7 < +4.5 >	+34.2 < +45.5 >	+11.8 < +0.6 >	+54.6 < 2.1倍 >	

2013年6月短観・調査結果

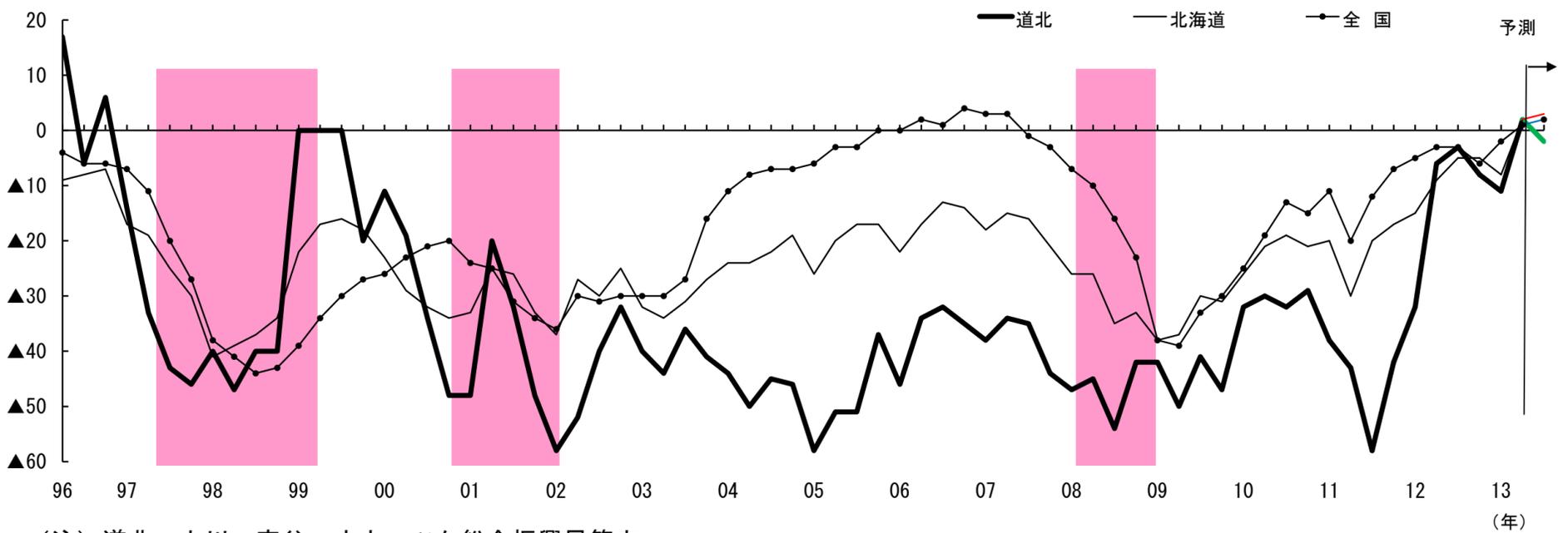
業況判断D. I. (「良い」 - 「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注) 道北：上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内
 2009/9月以前は調査対象企業等見直し前の旧ベース、2009/12月以降は見直し後の新ベース。
 シャドーは景気後退期 (内閣府調べ)

道北地域の企業短期経済観測調査結果（2013年6月）の概要

- 調査対象企業：道北地域 46 社（製造業 10 社、非製造業 36 社）
- 回答率 100%（有効回答社数 46 社）
- 回答期間：2013 年 5 月 28 日～6 月 28 日

1. 業況判断 D. I.

- 今回（6月）の業況判断 D. I.（全産業）は、前回（3月）調査に比べ、製造業・非製造業ともに改善したことから、「良い」超に転じた（前回▲9⇒今回 5、+14 ポイントの改善）。
 - 製造業は、木材・木製品業の改善から、「良い」超に転じた（0⇒10）。
 - ……木材・木製品業では、円安が進行する中、先行きの価格上昇懸念を背景にした前倒し注文の増加等から「良い」超に転じた（▲33⇒33）。
 - 非製造業は、建設業、卸・小売業等の改善から、「良い」超に転じた（▲11⇒2）。
 - ……建設業では、公共工事の増加を映じて大幅改善（▲27⇒0）。
 - ……卸・小売業では、円安進行で輸入農産物の値上がりする中、国内農産物の価格引上げを実現できたこと（増益効果）もあって、改善（0⇒12）。
- 先行き（9月）の業況判断 D. I.（全産業）見通しは、非製造業が小幅悪化を見込むことから、「良い」超幅が解消する見通し（今回 5⇒先行き 0、▲5 ポイントの悪化）。
 - 製造業は横這いを維持する見通し（10⇒10）。
 - 非製造業は建設業の悪化等から、小幅ながら「悪い」超に転じる見通し（2⇒▲2）。
 - ……建設業では、採算悪化（専門技能工の不足による労務単価の上昇）への懸念から悪化する見通し（0⇒▲13）。
 - ……旅館業が、インバウンド宿泊客増加による稼働率の回復を見込んでいることから改善する見通し（0⇒20）。

2. 各種判断D. I.

- 製商品・サービス需給判断D. I. は、木材・木製品業、卸・小売業等で改善していることから、「供給」超幅が縮小（▲37⇒▲23）。先行きは小幅ながら更に縮小する見通し（▲23⇒▲19）。
- 製商品在庫水準判断D. I. は、木材・木製品業で不足感が強まっていることから、「過大」超幅が解消した（▲6⇒0）。
- 生産・営業用設備判断D. I. は、電気機械業等で一時的に過剰感が出ていることから、「過剰」超幅が小幅ながら拡大した（2⇒6）。先行きは、卸・小売業、運輸業、宿泊・飲食サービス業で稼働率の改善等もあって、「不足」超幅に転じる見通し（6⇒▲4）。
- 雇用人員判断D. I. は、建設業で人員不足感が強まっていることから、「不足」超幅が小幅拡大（▲6⇒▲8）。先行きは一段と不足感が強まる見通し（▲8⇒▲31）。
- 資金繰り判断D. I. は、建設業が工事量増加でキャッシュフローが改善していることもあって、「苦しい」超幅が更に縮小（▲9⇒▲4）。
- 金融機関の貸出態度判断D. I. は、「緩い」超幅が更に拡大（4⇒14）。
- 借入金利水準判断D. I. は、「低下」超幅が小幅縮小したものの（▲9⇒▲7）、なお低下基調が続いている。
- 販売価格判断D. I. は、木材・木製品業で円安進行による輸入価格上昇分を販売価格に転嫁できたこともあって、「下落」超幅がやや改善したものの（▲10⇒▲9）、なお下落基調が続いている。
- 仕入価格判断D. I. は、円安進行による輸入価格上昇等もあって、「上昇」超幅がやや拡大し（26⇒28）、原材料価格上昇によるコスト負担増の基調が続いている。

3. 事業計画

- 2012年度の売上高は▲2.7%の減収、経常利益は▲21.1%の減益となった。また、当期純利益は黒字転化した。
- 2013年度については、輸出増加や公共工事増加を背景に、売上高が+4.7%、経常利益が+49.2%、当期純利益が5.0倍となる見通しのほか、設備投資は+34.2%となる見通し。

——3月調査に比べ、各項目とも上方修正（売上高は+2.0%、経常利益は+11.2%、当期純利益は+15.1%、設備投資額は+45.5%の、それぞれ上方修正）。

以 上